

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400226		
法人名	有限会社すこやかさん		
事業所名	グループホームすこやかさん		
所在地	香取市与倉869-1		
自己評価作成日	平成31年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	平成31年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員との親睦を兼ねた家族会遠足と外食また、花見等の四季折々の外出やデイサービスと合同で季節の行事を行っており、納涼会や運動会では、参加人数も多くなる為、盛大な盛り上がりで楽しんで頂いております。
食事にも力を入れており、季節ごとの行事食は手作りで見た目にも楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域住民との交流を積極的に図り外出の機会を多く設ける」との運営方針の下、保育園児や小中高生の体験学習を10余年続けており利用者の楽しみとなっている。地元ボランティア慰問も多く演奏会やゲームなど盛り沢山の催しが開かれている。家族同伴の遠足では40人を超す参加があり、家族からは利用者と一緒に参加できる点が良いとの評価があった。運営推進会議を利用して身体拘束委員会を立ち上げ、身体拘束適正化のための指針を策定している。開設以来からの施設長と管理者2人が固いスクラムを組み、スタッフと共に理念を実践している地元密着、開放的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各ユニット内に提示し、日々のケアの中での気付きなどから、処遇についてその都度話し合いを持ち、実践につながるよう努力している。	理念や運営方針はホームに掲示され、運営推進会議で毎回説明がされている。毎月のユニット会議において業務日誌の気付いた点を話し合い、振り返りや実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小学校、中学校との交流も定着し、施設行事への地域の方の参加もあり、相互に交流が盛んである。	保育園や学校との交流は長く、近隣のボランティアによる訪問も多い。地域との付き合いは広く来訪者も多い。市役所からも、地域に良く溶け込んでいるとの評価を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験学習や地元高校生のボランティア受け入れ、運営推進会議の場を通して、認知症について理解や支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現状報告を行い、行政や家族、地域住民を交えて意見交換や話し合いを行っている。	参加者は利用者、家族、市役所、住民代表、民生委員など毎回10人以上となっている。利用者の健康状態、行事計画、防災計画など多項目にわたり説明があり、質疑応答も活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の参加があり、事業所の理解、把握をして頂き、ご意見を頂くなどの協力関係がある。また、グループホーム連絡会、地域ケアマネ連絡会に参加し、意見交換を行い、サービス向上につなげている。	市の高齢者福祉課が運営推進会議に毎回参加し、アドバイスをもらっている。分からない点は電話でも相談するなど、親切に教えてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修で学んだ事を生かし、身体拘束をしないケアについて、全職員が理解し取り組んでいる。施設表門は国道の為、徘徊のある方の見守りを重視したり、ご家族様に説明と理解を得た上で、一緒に寄り添い散歩している。	身体拘束防止委員会を立ち上げ、「身体拘束適正化のための指針」を今年度期初に策定した。適正化のための委員会は運営推進会議を活用している。	身体拘束適正化のための指針に記載の職員研修については予定を決めて定期的な実施をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学習し、周知徹底しており、日頃から入居者様の尊厳を守り、共に支え合っていく事が虐待の防止につながると考えている。声掛けや言葉使いについても職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見人制度を利用されていた方もおり、理解を深める努力をしている。又、ご家族様より質問があれば説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、ご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には十分に説明し、不安や疑問、意向を聞きながら、納得を得ている。また制度改正時はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見を出しやすい雰囲気作りに努め、面会時などにご家族様としっかりとコミュニケーションを図り、日々の触れ合いの中で思いを汲み取るように努めている。	家族の訪問が多いので、来訪時には必ず面会し、利用者の状況を説明しながら家族の意見を聞くようにしている。また、苦情受付箱を玄関に置き、家族や利用者の意見を積極的に聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティング、連絡ノートを活用し、意見の出やすい仕組みを作っている。意見や提案は月1回のミーティングで検討し話し合いを行っている。	毎月のユニット会議でもテーマとして取り上げている。気づいた点は、連絡ノートやメモを利用して早く報告するよう日頃からスタッフに話しかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の個々の意見や提案、職場の環境の把握に努めている。改善が必要な場合は要望していくように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に研修を受ける機会があり職員のスキルアップの為、国家資格の受験の勉強が出来る環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やケアマネ連絡会、ネットワーク会議等で情報交換を行いサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様ご家族様に見学をして頂き、不安な事や要望を傾聴し、安心して頂けるような関係作りに努めている。事前に情報を収集し、必要なニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は面会時などの際、ご家族様から生活歴、不安な事、要望を十分に聞き取り、入居後の日常の様子を報告すると共に、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族の意向をしっかり把握しサービス導入段階で安心してサービスを受けられるよう努めている。要望に応じて支援方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリをかねて、利用者様がご自分で出来る事は行って頂き、人生の先輩から学ばせて頂くという姿勢で共に生活をしている。利用者様同士が教え合ったり、励まし合ったり、喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でご本人様の状態を伝えながら、ご家族様の意向を伺っている。ご家族様が出来る事は協力して頂き、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力のもと、外出や外泊をされたり、利用者様それぞれの生活習慣を尊重し、面会時はゆっくりと過ごして頂けるような環境作りをし関係が継続されるよう支援している。	初詣・雛祭・夏祭り等の年間行事計画を定め、馴染みの関係を支援している。家族会を兼ねた遠足では家族と本人が共に過ごせると好評である。普段から家族や近所の友人等多くの来訪があり、家族アンケートからも全員が行きやすいと答えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士の人間関係を把握し、無理に介入に入らず、自然な関係が出来るよう見守りを行っている。協力し合ったり、尊敬し合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後しばらくしてから亡くなられた方にも、弔問に伺ったり入院中であれば時々お見舞いにも伺い必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される時点でも家族やご本人から十分に話を聞き意思疎通が難しくなっても以前の様子をふまえ、個々の関わりから把握に努め本人本位の支援につなげる努力をしている。	入居時に本人・家族から意向や希望を聴き、把握に努めている。また職員等との会話や動作からも汲み取っている。個々の生活歴に合わせ混乱が生じないよう本人本位に優しく支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話や様子などの他、ご家族や知人からも面会時の会話から聞き取る努力をし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の経過は申し送りを通し共有し気づきがあれば、その都度全職員でミーティングや業務日誌を通し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が遠慮する中からも、意見やアイデアを引き出す努力をし、ミーティングなどでモニタリングなどを開示し、十分に検討し介護計画に反映するよう、努めている。	本人・家族の希望と、連絡ノート・個別のケース記録・業務日誌とミーティング等を踏まえ本人本位の介護計画を作成している。モニタリングは3か月毎及変化時は都度行っている。アンケートでも分かり易く説明を受けていると全員から回答を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に重きを置き、日々の様子について細かく記入し、全職員がケース記録を通し様子を共有している。業務日誌については意見や、気づきなどを自由に記載し、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出の支援を行ったり、OTによるリハビリテーションやデイサービス常勤看護師による体調の相談に応じたり、個人浴が難しい方にはデイサービスの特浴の対応や、同性職員の入浴介助の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インフォーマルな資源として学生ボランティアや地元の方の歌謡、園児たちの慰問があり楽しく交流をされている。また慣れ親しんだ公共の資料館などドライブがてら散策している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の掛かりつけ医や希望される掛かりつけ医に受診をし、時間外でも電話にて指示を仰げ、往診が受けられる。必要ならば家族にも同行いただき、適切な医療を受けられる様、支援している。	長年のかかりつけ医の受診を尊重し、其々に希望する医師の受診を支援し、結果協力医院も多い。時間外でも電話での指示や、状態により来診も可である。各医院との連携が出来ており、健康管理や医療・安全面で安心の支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より、個々の状態を伝えており、併設のデイサービスの常勤看護師にも相談にのってもらえ、必要があれば直ちに適切な対応や指示が仰げる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携シートA表を提示し、直接十分な説明を行っている。退院の際には、地域医療連携室のMSWとの連絡調整にあたっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で掛かりつけ医と家族、管理者による話し合いをしており、重度化した際には再度家族と十分話し合い、家族・医師・施設内看護師・介護職と共に連携し取り組んでいる。	重度化前の早い段階で掛かりつけ医と家族、管理者による話し合いを持ち、重度化した際には再度話し合い、医師の判断の基、家族・医師・施設内看護師・職員と方針を共有し支援に取り組む体制を整えている。開設以来およそ10名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて緊急時対応マニュアルを作成、日頃からもおこりうる急変の対応については相談し、その対応についてはミーティングにて共有確認している。救急法についても内部・外部研修に参加し学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防士立ち会いの避難訓練を実施。火災の他、地震、夜間を想定した訓練も定期的に行い、利用者・職員共に参加し避難できる方法を身に付ける努力をしている。また地域の方への参加や協力を呼び掛けている。	年間防災計画を策定し、年1回消防署立ち会い及び、火災・地震・夜間を想定4回の自主訓練を実施し、利用者も参加した避難方法の体得に努めている。また地域の方への参加や協力の呼び掛け及び備蓄品の用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部・外部の研修に定期的に参加し、ミーティングにおいても具体的な声掛けや態度を例に示し、十分確認注意しながら対応している。	言葉遣いに留意した会話に努めている。、個々の個性や意見を大切に支援していく旨の年間接遇計画を策定し、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。管理者が声掛けや態度を例に示し、十分確認・注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や様子などの他、ご家族や知人からも面会時の会話から聞き取る努力をし把握に努めている。表情の中から希望や思いを汲み取る努力をしている。またご本人の居室を使用したりし他の方と離れて自己決定の意思表示が出来る様、配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご本人の様子を把握したうえで、起床・食事・入浴・就寝などには特にご本人のペースに配慮し、希望に耳を傾け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には好みの化粧品などが置かれている。毎朝、洗面台の前でゆっくりお化粧をしたり、身だしなみを整えられる環境を作ったり、カットや白髪染めの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に会話をしながら楽しめる様、配慮している。地域の方から頂いた食材を使って、皮むきや味見をして頂き、お茶うけにしたりし使用している。男性の方でもすすんで下膳される方がいる。	食は体を作る基本・健康の源をコンセプトに、温かい手作りの食事に拘り、調理専門の職員を配置している。季節毎の行事食や地元調達の良い米や野菜・食材等を用いたバランスの良い食事や状態に応じた食態の提供および介助に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がしっかりと摂れる様、それぞれが好んで飲めるものを提供したり、栄養士とも相談しながら、残食の様子を観察し、好みの食事で偏りのないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥や肺炎予防になる事を認識し、ご本人に沿った方法で毎食後必ず口腔ケアの支援をしている。定期的に義歯の具合の確認や介助にて舌の掃除も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ひとりの排泄リズムや尿意時の様子を把握し、重度の方でもトイレでの排泄が気持ちの良い事と感じて頂ける様、配慮しながら時には職員が二人介助で支援を行っている。	個々の排泄パターンや動作等から把握し、なるべくトイレでの排泄が出来るよう支援している。重度の方でもトイレでの排泄が出来るよう、二人介助で本人の負担がない様配慮しながら支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による二次的な疾患についても理解し、排便のコントロールを医師に相談したり、日頃からの便秘予防の食材や水分補給を取り入れ、個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人浴ではタイミングをみながら一人の職員が着脱から入浴まで関わり、ゆったりと安心した入浴に努めている。希望があればデイサービスの大浴場にて温泉気分楽しんで頂いている。	ひとり週2~3回の入浴を支援している。脱衣から入浴・洗身・着衣まで一人の職員が対応するため一対一のふれあいの時間にもなっている。希望によっては併設デイサービスセンターの大浴場での入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間もお一人おひとりの希望に沿って、室温や寝具(湯たんぽ他)の管理や日中も質の良い睡眠が取れる様、運動や散歩、入浴にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての疑問があれば直ちに掛かりつけの薬局に連絡し解決している。内服薬は一包しており、配薬の際は二重にチェックし内容の変更時には様子を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの楽しみごとは、ご本人やご家族から日頃の会話から引き出す努力をし家事仕事の役割を支援をしたり、喫煙所での喫煙や飲酒を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出や外食が自由に出来る様、支援している。家族だけでは外出が難しい方でも、職員が付き添い支援したり、自宅への送迎も行い楽しんで頂いている。	ホーム周りや庭の草花等を愛でながら散歩に出ている。年間行事計画を作成、家族同伴遠足を含め、近郊の名所等あちこちに車で毎月出掛けている。家族アンケートにも、年複数回の外出支援があると全員が回答している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の希望あれば、十分話し合い日頃から財布を持ち、買い物ができるよう支援している。職員もしっかりと金銭管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話使用の支援をしている。椅子に腰かけながら、ゆっくりと会話を楽しんで頂いている。子機を利用し、自室にても他の方に聞かれない様、配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く過ごせる様、居室やフロアの適温に配慮している。季節感を感じて頂ける様、月ごとに壁面の装飾もご利用者と一緒に制作したり工夫している。	居間・廊下等の共有の空間は行事の際の写真や季節の飾り物等が飾られている。居室やフロア等ホーム内は換気や適温に配慮されており、利用者は皆お元気に過ごされ、パズル等楽しむ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と気の合った方が集まり、自席が決まってきたり。お互いお茶をしながら、菓子を交換したり談笑できたり、自室でも独りになれる様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や自宅で使用していた使い慣れた物品を設置し、過ごし易い空間となるよう努めている。	入居前に使用していたタンスや机・小物等持ち込み好みに配置し、壁には子や孫の家族の写真等を飾り、居心地の良い空間となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	直線の導線である為、歩行がしやすい。トイレが中央にある為、迷うことが少なく自力で行き易い。安全に自立した生活が送れる様、配慮している。		